

人間が機械にあわせている現在から、
機械が人間にあわせていく近未来のために!!
とくに 人間にやさしい情報分類構造 を研究開発していくために!

ソシュール・チョムスキー・認知言語学から対象言語論へ。
絶対論理学から矛盾論理学へ、そして言語的論理学へ。
日本の国学伝統から現実論の世界学へ。
『源氏物語』や『奥の細道』のような内容も現実になめらかに
扱える IT ソフトウェアをめざす ...

G.W.F.ヘーゲルおよび本居宣長・鈴木 ^{あきら} 脛・^{もとき} 時枝誠記
・三浦つとむ・今井幹夫・宮下眞二ら、
この学問の流れを今こそ明るみに出すべし。

USA 発世界恐慌への不安がある今、それが世界の自由と平等と健康平和のためにもっとも基礎的な研究なのだ。

なお、本論はかつて 1981 年にコンピュータと人間の関係に深く深く悩み
東京大学工学部計数工学科を ^{まなぶ} あえて中退した山田 学からの、
あれから 27 年後の論理的回答でもあり、
また、山田の思索と言語の秘訣(?)でもあります。

本論は山田 ^{としお} 俊郎 (1926 ~ 1996) が開拓した次世代生命技術「TQ 技術」に関し、
この学問化と社会化において 必須な 米日中各文化のバランス追求 の、
その核心でもあります。

簡潔な論文とするため、たれかに対して論争するという文体でなく、
ただただ世界を反映する という文体です。

全体の内容は本文p1をご覧ください。